

「子どもが 自ら育つ 学校づくり」

安城中部小学校長
稲留 雄一

校庭の桜が、新年度の幕開けを待っているかのような春の訪れです。70名の新1年生を迎え、総児童数482名で令和6年度のスタートを切ることができます。ご入学・ご進級、おめでとうございます。



新年度の始まりに当たり、入学式、始業式では、「明るいあいさつをしましょう」というお話と、「困っています」「大丈夫？」と言える温かい学校にしていきたいと思いますというお話をしました。子どもたちが安心して学校生活を送れるように、教職員一同、力を合わせてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

安城中部小学校では「子どもが 自ら育つ 学校づくり」を目指して学校教育を進めてまいります。コロナ禍を経験した私たちは、これまで経験したことのない問題に出会ったときに、どう立ち向かっていくのか、そのために必要なものは何か、そして、目の前の子どもたちに、どんな力を身に付けさせなければならないのかという大きな命題を突き付けられました。

安城中部小学校では、子どもたちが、目の前の問題を自分事としてとらえ、自分たちで解決していく力を身に付けさせることが何よりも大切なのではないかと考えました。つまり、現在の状況をより良いものにしようという「願い」をもち、その実現に向けて、じっくりと考えて「判断」「決断」し、仲間と協力しながら、「解決」「実行」する子どもたちの姿を求めて、学校教育を進めていきたいと考えたのです。

授業の中で、学級生活の中で、行事などの諸活動の中で、常にこのことを念頭に置き、学校教育を進めていこうと考えています。

単に、知識を身に付けさせたり、覚えさせたりするだけではなく、学び方を身に付けさせる必要があると考えているのです。つまり、子どもたちに、おいしい魚を与えるだけではなく、魚の釣り方を身に付けさせなければならないということです。

取り組みの成果は、すぐには現れないかもしれませんが、3年後、5年後、もしかしたら大人になってからなのかもしれませんが、それでも、子どもたちの明るい未来のために地道に努力を続けてまいる覚悟です。

わたしとママ 坂上 あんず (小学2年)

ママの顔を見ると 何かしゃべりたくなります 「ねえ」だけでもいいくなります
「ねえ」といってから 話すことを考えます。 どんなに考えても話すことがなかったら
「なんでもない」といいます。 (『教えない「教える授業」』 佐久間勝彦著より)

安城中部小学校教職員は、子どもたちの声を聴きながら、子どもたちをよく見ながら、子どもたちの目線で、子どもたちとともに学び続けてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、本年度もご支援のほどよろしくお願いいたします。